



門 760 卷

益軒貝原先生著

花譜

全部三冊

平安書肆

瑞錦堂藏版



花譜序

君子之心不失本然之樂則凡滿天地之間者心目之所觸皆足以為資其樂之具況花木芳艸尤可以玩賞者乎然心可寓乎物而不可溺乎物寓乎物者天理之所以樂也溺乎物者人欲之所以苦也寓與溺之間不可不察也夫凡愛玩花卉者古今人情之所同然也不隔君子與小人然君子之愛花卉也奚翅耽翫色耶將以觀天地生物之氣象顯乎物而已非小人之役心於園圃而玩物喪志之比也嗚呼天地生物之氣象可見而不可言能觀於此者知道也苟欲愛觀花卉則養之之道亦不可不察也

木之性各有異故養之之道亦各殊宜且佳木芳艸之生
 有待於人力非若稂莠稊易於蕃茂也是培養之功所以
 不可闕也予曩有艸木之癖於植養之方也嘗聞其說矣
 今既不如昔然於心終不忘頃養病伏枕于艸堂纏綿彌
 月不能治經書於是纂輯於嘗所聞見與所驗閱而作花
 譜三卷以述種植之培養之法可備他日之間覽云爾

元祿七年中元日

貝原損軒書

花譜目錄

上卷

總論

栽樹 下種

披枝

壓法

接樹

護養

中卷

正月

四種

木二 草二

梅 山茶花

福壽草

金盞花

二月

十二種

木十 草一

山櫻

杏

辛夷

小櫻

垂絲櫻

櫻

李

連翹

櫻桃

山櫻桃

玉蘭花

三月 三十八種 木十三 草二十四

桃 海棠 檀子 梨 薔薇 月季花 玫瑰花

餘蘗 縵絲花 芫花 蝴蝶花 笑靨花

棣棠 草棣棠 牡丹 躑躅 紫藤 華鬘 楹栲

鈴挂 白及 燕子花 鳶尾 石南 美人蕉

粉團 雪柳 茼蒿 馬蘭 白頭翁 櫻草 庭櫻

紫荆樹 鰕眼 堯世伊登宇 仙臺款 草牡丹

米囊花

四月 十六種 木四 草十二

昌蒲花 錦帶花 鉄線花 石竹 虎耳草

紅藍花 白丁花 芍藥 小藤 杜鵑花 佛桑花

下毛 卵花 美人草 檀特花

五月 十五種 木五 草十

橘 金絲桃 鼓子花 紫陽花 梔子 剪春羅

萱草 夏菊 石榴 蜀葵 錦葵 黃蜀葵

五月菊 鷹爪 合歡

六月 十七種 木一 草十六

蓮 紫微花 鳳仙花 風蘭 百合 凌霄花

剪秋羅 秋海棠 牽牛花 茶蘭 金沸草

萍蓬草 慈姑花 鉄色箭 浮薔 飛廉

王簪花

下卷

七月 十二種 木二草十

蘭

東浦塞牽牛花

桔梗

雞冠花

槿

芍菊

龍膽草

蘋桐

紫苑

睡蓮

白粉花

午時紅

八月 六種 木二草四

鹿鳴草

木芙蓉

木犀

女郎花

獨頭蘭

附子

九月 四種

菊

秋牡丹

鬱金

通和

十月 四種 木三草一

寒菊

枇杷

茶梅花

海紅花

十一月 三種 草

水仙

千日紅

三波丁子

十二月

蠟梅

迎春花

右の如く花名凡百三十種の内本花四十四種草花
八十六種ありけり本花は実葉ありてありてあり
けりてありてありてありてありてありてありてあり
たりてありてありてありてありてありてありてあり

草 三十四種

蘭草 葛蒲 卷栢 石葦 石斛 苔 景天

佛甲草 螺曆草 忍草 貫衆 茅藤花 麥門冬

吉祥草 珊瑚 細辛 萬年青 百部 霸王樹

竹 籜 芭蕉 錦荔枝 蕃椒 芒 知風草

濱木綿 木賊 鴈來紅 蓴 荇 浮萍 酸漿

萬年松

木 三十三種

松 栢 檜 圓栢 落葉松 羅漢松 檜 栢子

榧 賢木 佐和羅木 杉 唐杉 柳 鳳尾蕉

梭栢 梭栢竹 機樹 冬青樹 衛矛 栢桐

橙 梓 黃楊木 椎 椿 梅 茂登波 木國 金橘

多羅葉 枸杞 讓葉 平地木

右多木此花多あり六十七種凡此ありと云ふ
とすんてりどもん百九十七種之由來七
少種葉百二十種

○たゞはしきも一葉此よりかた書きて吾い
みくも物多しなるも一と云ふる人を待

小栢 垂絲栢 栢 草棟棠 華鬘 鈴栢

雪柳 蓀草 庭栢 鰕根 荒世伊登字

仙臺萩 草牡丹 鉄線花 白丁花

小藤 下毛 卯花 檀特花 東浦牽牛花

茶蘭 白粉花 鹿鳴草 女郎花 千日紅

通和 三波丁子 忍草 濱木錦 佐和羅木

賢木 唐松 梅皮登木 木國 多羅葉

藻葉 乞三十六種

考用書目

齊民要術 種樹書 農桑輯要 農政全書

種果疏 花史 牡丹譜 詩經

山海經 爾雅 月令 史記

紙史 居家必用 博物志 文選

杜工部集 物類相感志 崔豹古今註 荆楚歲時記

酉陽雜俎 本草綱目 柳州集 時珍食物本草

閩書 事文類聚 鶴林玉露 朱子文集

救荒本草 三才圖繪 月令廣義 蠡海錄

潛確類書 事林廣記 天工開物 唐詩畫譜

天中記 園史 遵生八牋 墨莊漫錄

古今醫統 福州府志 養老壽親書 五雜俎

衡岳志 松江志 彙苑

八雲御抄 萬葉集 文德實錄 古今和歌集

頌和名抄 源氏物語 拾遺集 增鏡

朗詠 夫木集 枕草子 袖中抄

藏玉 蹇驢斯餘

花譜卷之上

總論

栽樹

損軒編錄

民要術曰凡樹之種。正月之上。二月之中。
 三月之下。可也。○今信之。其果。春ハ
 生。物。此。何。の。草。本。此。種。氣。此。ん。少。て。春。生。此
 於。つ。り。有。草。本。此。種。氣。此。ん。少。て。春。生。此
 就。中。正。月。ハ。陽。氣
 和。生。此。何。の。也。又。本。此。種。氣。此。ん。少。て。春。生。此
 の。種。此。何。の。根。中。此。種。氣。此。ん。少。て。春。生。此
 ひ。く。し。と。活。命。了。有。樹。を。く。し。と。活。命。了。

上計す。二月三月色よつどり。夏へ来れば枝葉まじ
 のびちがり。木の精氣令枝葉あり。根ののびるも
 生氣すくまうしてうろくまを本に性そそぐ。秋
 ハ陽氣すくまうしてうろくまを本に性そそぐ。冬は
 根ののびるも。故に夏は根ののびるも。秋は
 よろくまを本に性そそぐ。冬は根ののびるも。故に
 うろくまを本に性そそぐ。又月令度義曰樹とくろくま
 冬に此す。冬は根ののびるも。又曰冬至れば
 木の根ののびるも。天地の氣ののびるも。冬は
 生氣すくまうしてうろくまを本に性そそぐ。

蘇民要術曰凡樹をうろくま根鬚をそとくろくま根鬚
 とくろくま根鬚をそとくろくま根鬚をそとくろくま根鬚
 無時莫教樹知。冬は根ののびるも。夏は根ののびるも。
 して夏秋冬に間うろくま根鬚をそとくろくま根鬚をそとくろくま根鬚
 けり細根をそとくろくま根鬚をそとくろくま根鬚をそとくろくま根鬚
 竹此時すも活むとらうろくま根鬚をそとくろくま根鬚をそとくろくま根鬚
 してあつむろくま根鬚をそとくろくま根鬚をそとくろくま根鬚
 本根ほろくま根鬚をそとくろくま根鬚をそとくろくま根鬚
 みるもろくま根鬚をそとくろくま根鬚をそとくろくま根鬚

可角さうく白くべし。あふ表裏ありなるとを
 人北考ふみるをふじりりひて。又大枝の南へ
 ひりりひてし。もめてお押りり引るるを
 きうれ根乃ぞぐりぢるやよすごに極めし。又
 根乃さよのちぢるや極へし。あぐりハあり。只
 根乃ぢよさごぢり。人おりりておとすく。し。
 まつりさうくはせさうくはほ。又おとすく。あま
 根盤北^{うづら}あまはほくあふさし。あれうへて
 ぢりあまさうくはせ。はあありあまはすさうく。
 うへぢりりてさうくりは竹あまはうく。繩りりて

ゆひつてし。ゆほうくさうくはうす。せさうくハ二
 三行ゆひせし。ゆほうくさうくはうす。あまは^{あま}
 ゆほうくはあまはうく。又枝系北ぢりあまは
 りぢ。枝系よくあまはうす。やまあまはうす。て
 根のせ氣^{あま}うす。やま。はあまはうす。はつ根せ
 せさうくあまはうす。あまは。指をさうく。あまはうす。
 しりひぢり。あまはうす。あまは。根盤をたあ。
 せさうくあまはうす。あまは。はあまはうす。は
 〇うへてほくさうく。一度あまはうす。あまは
 してぢり。あまはうす。あまは。あまは。あまは

みむろくをんし

農政全書曰。樹をうり寸は八。薨を以て根をほく。目小
何〜〜〜む〜〜〜車よのせてふり〜〜〜平
や〜〜〜引して。空はひろ〜〜〜根を直よ
う〜〜〜む〜〜〜。木を〜〜〜。ゆひつを
投あ〜〜〜。根動〜〜〜。大さ文評のよ
毛流〜〜〜。さげ〜〜〜。風を〜〜〜
してよし。凡樹を栽〜〜〜。ハ西風を忌

又曰。凡果木をうり寸は先九月中の後。樹れまうりを
ほりて。縄を以てまうりをうけ。ほり〜〜〜ハ

をせ〜〜〜し。

史記よ。〜〜〜あ〜〜〜て。水をうり〜〜〜と
〜〜〜。凡樹を〜〜〜。玉地よ〜〜〜
〜〜〜。〜〜〜。玉地よ〜〜〜
樹〜〜〜。長〜〜〜。長トて花〜〜〜
〜〜〜。山中ハ。柿。栗。柚。櫻。林檎
あ〜〜〜。檣。棋。〜〜〜。海。色。及。沙。地。ハ
蜜。檣。金。檣。梨。小。柚。あ〜〜〜。柿。栗。柚。〜〜〜
〜〜〜。山。中。ハ。沙。地。よ〜〜〜
沙。地。よ〜〜〜。山。中。ハ。松。梅。ハ

つづつ乃地をよまう。橋の板及種鉄ハ。空國より
よまう。つづつ乃地をよまう。信濃ハ。空國より
く。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
はあまのこつづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
よあまのこつづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。

春夏うるまハ。根あせれり。つづつ乃地をよまう。
しやまのこつづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
陽氣すくまのこつづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。

種樹書曰 苗より少くはつづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。

肥を入。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
し。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。
つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。つづつ乃地をよまう。

やらし。必又三四日此はよみそりてして。ゆはうこ
うすりあられ

農政全書曰。凡諸木とらうるに下弦の辰。上弦の辰を

トシハセニタリ 地氣ハ随月盛なり。朔をみく初し。

トシハセニタリ 氣盛なるも。木此生氣令く枝葉あり。かろゆへ

よんりせも枝とやづる。はぶとせハハハ氣と多み。

凡樹とらうる。根盤此ちめく付らうるをうし。根を

おびせして根らあうるは。ぼりてと根り

風目のあうるは。あてとやくうし。づき

やらし。風自あうり。ぼりてと根らあう

けり。臘月根此とけう此おとけり。春わうと根ら

あひして。火をつけてわうとやせ。ちのこくおを

あうらうし。づてね一二年もすげうして

実るも。年々けけをりねん。あうしとす。たて

て人の所は。あうするがし。

あひわうらうる。園史曰。ハ九月此君。根れを

なる二三年もなる。新あある。根らあうる。あ

竹刀あてて。根よつて。根をす。人し。鉄力

を。あうし。又根らあうる。あうし。あうし。あうし。

あうし。又農政全書曰。あをわう

ひげなし。古人の時は陽よりく花木の葉は
あひ下りしと云へり。凡日あつたに花木の葉は
べし。或曰半月。日あつたをいふ

凡樹をいふは平地より少くさうさうし。花葉は

くあんが金橋りての橋はじりて深と極

まハちもさうさうし。深あるをいふ。深をいふは

下此土を細く折れけ。根入をいふはさうさうし。花

此うなまはさうさうし。さうさうしはさうさうし。樹

さうさうしはさうさうし。さうさうしはさうさうし。樹

さうさうしはさうさうし。さうさうしはさうさうし。樹

草花乃根さうさうし。さうさうしはさうさうし。樹

牡丹芍薬乃根さうさうし

凡草花乃白きと赤きと。一列はさうさうし。樹

別なさうさうし。一列はさうさうし。樹

必さうさうし。蓮はさうさうし。さうさうしはさうさうし。樹

紅白はさうさうし。さうさうしはさうさうし。樹

凡木はさうさうし。さうさうしはさうさうし。樹

さうさうしはさうさうし。さうさうしはさうさうし。樹

さうさうしはさうさうし。さうさうしはさうさうし。樹

花器 鑷 鐮 鐮 尖棒

鑷はさうさうし。鐮はさうさうし。尖棒はさうさうし。さうさうしはさうさうし。樹

一曰。歐陽公の花と云ふ。乃曰。淺深紅白
 宜相間。先後仍須次第栽。我欲四時携酒去。其
 教一日不花開。又園中ハ新徑を切くへし。
 前漢乃蔣詡ハ。園之三徑とひく。宋乃揚誠齋の
 三徑初開是蔣卿。每開三徑有淵明。誠齋奄有三三徑。
 一徑花開一徑行。

一曰。乃君子。蘭菊松竹梅水仙蓮とを和しある。ハ
 松竹梅と云ふ乃三五と。玉梅臘梅水仙山茶
 と云ふ此四と。又薛文清ハ竹梅紫菊並と云
 友と云。そと云ふ此芳潔とて前探ある。我

此洒落なるんようおけしをてあり。

下種

農政全書曰。樹木此種を植ふ。よく熟して実の入りは
 月の入し。垣乃下此陽ふじつあつくる。ゆ行は
 廣く完をほり。牛を此糞と土と混ぜあはせ。完の底
 又平よち。実のとりをよめてく人。又右の糞を
 以てよと作りし。一切草木此種子よくまれり。
 かく熟したるをみて。よくお瓶に入くる。おは
 かくし。凡草木菜蔬皆種をうく。可及て遅くうま
 りふる。又けり。そのもあ。種をよく研はる

物を平ハむし凡ちえて物なき土乃か隈あるまふ。
 小石と土をまといふてをを濬ぎ地を平らふ樹の芽
 付せしむるをすまふ。梢乃腹をうりて小枝を
 長一尺修し切て。不末とる乃身乃しく片れざん
 たりて。先列の小枝を土をまふ。片んとする枝
 此まふをうりて。まふはひふへし。そ後ををまひり
 とくくはくし。每穴おきり一尺許よま棚をけ
 こもをまふて目と蔽つし。又樹をけあもす人し。
 月よあつたをいむ。片をな夜四より一度必ををく
 へし。一月の後ハせぬまをまひり。もも密なり。冬ハ寒
 くとすし。冬をな紙紙をうり裁へし。

月令廣義曰。二月乃多ふまふ。可れ母の枝をまふせしむる
 又二月上旬。法此果木ホ此樹を。芽う大根を母を
 片りて地を埋めし生を。まふをうりてまふなり。
 樹ノ枝を挿法 枝乃りて紙を再此くくをせ。白銀
 乃末とまふ紙すりあをせ。まふをうりて所は物ありて。す。
 先下んるをまふ。まふをまふ。片をな夜四より一度必ををく
 せりてはまふし。必清く。元一木ハうく土中よ入
 へし。まふり上れ枝をけまふ生し。まふり上れ
 短くまふし。枝葉をまふまふあり。

くもぬ。木此鉤クヰ子とけり。す。す。枝りもりれ。さ。さ。公
肥とよ。ゆ。ま。枝。上。下。と。五。指。乃。あ。り。け。り。枝
乃。中。乃。あ。り。ハ。と。け。り。末。乃。方。ま。か。い。お。さ。け。り
して。あ。り。り。ま。入。し。肥。あ。り。ま。く。ま。枝。の。ま。は。く
し。梅。由。の。ま。と。枝。葉。ま。け。り。て。ま。枝。乃。根。必。ま。も。次
年。ま。葉。ま。り。ま。て。前まへと。ま。根。乃。連。ま。り。あ。り。切。て。有
中。乃。好。ま。り。と。殺。し。

月令廣義云梅由此付。肥也。芙蓉石榴槲桃カキも此
種と云ふ。て挾へし。○梅由乃付 山礬さんらん 水柅すいせき
躑躅ちつじく 栢カシ つまき。と。う。い。ま。り。ま。り。し。

接樹ツグツ

農政全書曰。木何つごまハ。ほ。が。あ。の。よ。ま。い。ま。り。あ。し。三。年
よ。り。ま。り。れ。肥。て。ま。り。湯。ま。り。の。ま。り。と。り。ま。り。
鋸のこぎりハ。細。を。り。い。ま。り。し。小。カ。ハ。よ。く。ま。り。と。り。ま。り。し。
ま。り。乃。ま。り。ま。り。は。く。し。農。政。全。書。三。七。卷。よ。り。ま。り。
は。ま。り。ま。り。可。考。

農政全書曰。木はほごま。あ。り。ま。り。し。ま。り。と。り。ま。り。し。
つ。く。し。と。り。ま。り。し。つ。が。あ。の。ま。り。は。ま。り。
し。つ。が。あ。の。ま。り。の。ま。り。ま。り。し。

又曰。ま。り。の。ま。り。は。く。し。ま。り。ま。り。ま。り。し。

又曰。正月下旬 梅 桃 杏 梨 李 棗 栗 柳 楊 梅 と
 ばぐへし 二月上旬 橙 橘 柑 柚 とはぐへし
 金橘を避^ひけり。○今案どらん。あははぐよ。時節
 うぶを守るべし。凡そをつよハ。花のあと。芽のあと
 うし。王昏抄目。あはつてよハ。生さす。に。と。ま。て
 いま。め。ら。ゆ。る。時。先。を。す。と。く。お。ご。て。つ。き。中。に。し。
 臺木大なるハ。ちくま。り。て。つ。へ。し。お。ま。ハ。む。く。つ。へ。し
 け。ん。と。す。る。む。つ。ふ。は。口。中。の。う。く。あ。て。て。せ。れ
 と。と。へ。し。春のうま

農政全書曰。臺木一叩はつぎはらうはぐへし。ころよみ

活て糸々々。と。ま。ん。一。拍。と。ま。り。お。と。ら。る。へ。し。
 は。ぶ。木。乃。巻。き。ま。ハ。つ。ぎ。に。き。く。切。て。さ。か。と。ま。り。あ。の
 と。と。へ。し。末。と。は。ぐ。へ。し。
 樹とはぐよ。月あてれ方。南よし。く。あ。る。へ。し。さ。ら。に
 樹とま。り。て。実。あ。り。つ。へ。し。ま。り。日。け。の。枝
 と。ま。り。つ。へ。し。
 接木ハ。樹と。遠。方。より。あ。る。と。ま。ん。小。葉。ま。お。を。入。枝。を。接。し
 ぐ。ら。そ。う。し。お。ま。り。な。る。も。か。れ。も。
 或人曰。あ。は。つ。て。あ。り。と。ま。り。き。く。切。て。つ。ぎ。ま。ま。れ
 くと。ら。る。と。ま。り。つ。へ。し。

或曰。牛乃延トシと云うて。樹とはげつぎんをなすけし。
母の延トシと云うし。本草綱目よ。牛延トシと云うはあり。
物類相感志曰。葉乃木よ揚梅とつげど不スガ又種樹書
曰。葉乃木とつげど不スガ又曰。葉乃木とつげど其
母乃木。

胡桃乃枝と柳乃枝と云うは。中やとくも中くこのか。
是は漫録

樹乃木とて花乃木とのらるへ切ては。銀葉のこの
ごらん男木也。そまかりては。ごらん。

接木のたのむりいとも人出か。ごらんつらるへし。つぎん接木つぎ

ては。とまのくちげしていとも。ごらんつらるへし。ごらんは
去らるへし。ごらんつらるへし。ごらんつらるへし。

護養

月令廣義曰。五菓此樹。花繁ケル時。葉よあへとまを。あ
初てそは。おんつらるへし。必要あり。ごらんつらるへし。
ゆらよ葉ヤとつげど不スガ又曰。葉乃木とつげど其

名花譜

二月よ諸果木よトシ月令廣義

春乃社月よ。ごらんつらるへし。ごらんつらるへし。ごらんつらるへし。

とちり也。又其のしるもよくにすれとのる。

橘いんげん梅乃栽乃下根をすくぐりて。他乃果樹も又之なり。他

橘ハれちふ可也。橘も根をすくぐりて。さうもは菓

樹乃下根。ちりて。此枝ハ。かりて。しと。園史ハ。之を

凡橘木此烈白とあり。此ハ。此ノ日見あるも。すくぐりて。

湖月ハ。つきます。まの。目よ。あつと。すくぐりて。

橘橙機樹びんがきの根よ。土を厚く培て。す。枯んとす。ま

も。しく。ふ。あつて。培て。あ。あ。かりて。す。び。一。張。す。す。あ。あ。

果木と虫食す。ん。葉花と。び。定の中よ。入。其。す。なる。つら

深く。本百部ハジカキ葉と。入。も。又。す。す。り。又。根乃。あ。は。小。行。よ

ま。つ。り。本。此。元。と。す。け。し。虫。死。ル。ハ。移。葉。花。の。あ。り。葉。花。ハ。ち。り。あ。り。す。の。ま。り。

凡木乃定。此乃。何物。其。物。を。根。よ。あ。り。て。す。す。り。あ。り。し。

与。葉。花。の。く。も。す。り。又。す。あ。り。本。此。ま。り。と。つ。ひ。し。

凡花乃多。う。し。る。の。根。求。め。ん。ナ。二。正。府。の。間。を。本。の。根。を。肥。出

と。三。寸。う。あ。す。う。つ。ら。う。し。竹。有。つ。ら。う。あ。り。す。園。史。

凡若。あ。あ。ま。つ。て。す。す。り。あ。り。す。の。葉。け。を。す。す。り。あ。り。し。不。り

と。は。あ。り。し。本。乃。葉。を。す。す。り。あ。り。し。園。史。曰。樹。下。二

明。亮。あ。り。し。あ。り。し。の。葉。或。夜。水。を。す。す。り。あ。り。し。

橘いんげん梅いんげん抽橙いんげん此。於。十一月。十二。有。根。を。す。す。り。あ。り。す。を。す。す。り。あ。り。す。の。果

乃。下。と。す。す。り。あ。り。す。け。り。て。葉。を。す。す。り。あ。り。す。て。他。月。を

